

6月10日(日)

時間 10:00~16:00

会場 大阪歯科大学 創立100周年記念館

対象 歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士・学生

研修費 歯科医師(会員)7,000円、歯科医師(会員5年未満)3,000円
歯科医師(会費未納者、他大学)17,000円
歯科衛生士・歯科技工士3,000円、学生無料

超高齢社会における 戦略的歯科治療

～ 要介護者への義歯治療の 有効性を考える ～



松田 謙一

[所属学会]
日本補綴歯科学会専門医・代議員
日本老年歯科医学会(認定医)
日本口腔インプラント学会専修医

[略 歴]

2003年 大阪大学歯学部卒業
2007年 大阪大学大学院歯学研究科卒業
2009年 大阪大学大学院歯学研究科
顎口腔機能再建学講座 助教
日本補綴歯科学会専門医・代議員
BPSクリニカルインストラクター

[近 著]

- 『全部床義歯臨床のピブリオグラフィ』
歯科技工(2015年1月~2017年6月全25回連載)
- 『無歯顎患者への戦略的補綴介入』IODと全部床義歯
デンタルダイヤモンド(2017)42: 21-49.
- 『全部床義歯のClinical & Educational Question.』
歯界展望(2017)130(4): 625-641.
- 『現義歯から読み解く新義歯への手がかり』
歯界展望(2018年1月より連載)
- 『患者説明で変わる総義歯臨床』
クインテッセンス(2018年1月より連載)



田中 佑人

[略 歴]

2008年 広島大学歯学部卒業
2013年 大阪大学大学院歯学研究科卒業
2015年 カロリンスカ研究所(スウェーデン) 博士研究員
2016年 大阪歯科大学附属病院障がい者歯科 助教
BPSデンティスト

全部床義歯臨床には実に様々な手法や流派が存在し、今でも多くの書籍が出版され、講演会も多く開催されている。つまり、それだけ習得が困難であり、多くの臨床家が苦慮している分野だと考えられる。そこで本講演では全部床義歯臨床を成功へ導くための様々なポイントについて、時間の許す限り考察したいと考えている。特に重要であると考えられる以下の項目について出来るだけ分かりやすく解説したい。1)全部床義歯の治療対象とは? 2)全部床義歯の難しさを再考する 3)術前の診断、現義歯の分析の重要性 4)概形印象はコンセプトが鍵となる 5)最終印象法の選択 6)咬合高径はどのように決めるのか 7)間違いの少ない咬合採得法とは 8)咬合様式に関する考察 9)装着時のポイントと咬合調整 10)リコールの重要性と何を行うのか。なお、本講演では、単純な手法の紹介にとどまらず、なぜそうするのか? が理解できるように伝えたいと考えている。(松田謙一先生)

近年の医療の進歩に伴い、障害を持って生まれた新生児あるいは人生の半ばで重篤な疾患に罹患した人の救命率が向上したことにより、障害者や要介護者が増加しており、平成25年末時点でそれぞれ787万人、569万人と報告されている。認知症患者も増加傾向にあり、平成24年末時点で462万人に達した。本講演では、こうしたスペシャルニーズに地域歯科医院がどのように対応できるかを伝えたいと考えている。(数値はいずれも内閣府発表のものを使用)

(田中佑人先生)